

東日本大震災から13年。復興が進んでいるかのようですが、福島第一原発事故後の周辺地域は、まだまだ震災前とは程遠い状況です。福島では2万6千人を超える方々が自宅に帰還できず避難生活を余儀なくされています。

通行制限中
この先
帰還困難区域につき
通行止め
原子力災害現地対策本部
大田町

東日本大震災復興支援募金にご協力をお願いします

カンパのお申込みは50号、51号、52号でできます

東日本大震災復興応援特設ページを開いています。
ぜひご覧ください！



東日本大震災復興支援募金

015 一口 200円

016 一口 500円

何口でも申し込めます

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。

※【例】申込番号 **015** の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

これまでの募金状況

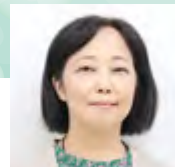
組合員とお取引先・その他から寄せられた募金総額 (2011年~2023年10月20日時点)

3億4861万3226円

支援に活用 3億2440万7391円

残高 2420万5835円

グリーンコープ共同体
代表理事 日高 容子さん



毎年、たくさんの復興支援募金を寄せていただき、ありがとうございます。震災後の支援活動を通じて、宮城、岩手、福島などでつながりがうまれた団体の活動に共感し、活用をさせていただきました。

原発事故という問題にも直面している多くの方々がいます。放射能汚染、生活状況の変化に伴う悩みなど、長い年月を経ても、解決するには難しい深刻な課題をも抱えています。

そのような中であっても、地域の高齢者の見守り、みんなで集える居場所は必要です。また、震災孤児となってしまった子どもたちへも心を寄せてあげたいと思います。

これからもグリーンコープ生協ふくしまと連携し、グリーンコープらしい、人と人とのつながりを大切とする、心の通った支援を続けていきます。

3.11東日本大震災 亡くなられた方15,900人、行方不明の方 2,523人 (警察庁2023年3月9日)。

東日本大震災の大津波で多くの家屋、水産工場、小学校が流され、かけがえない多くの命が失われました。そして福島第一原発事故により、今なお故郷に戻れずに避難生活を余儀なくされている方が多くおられます。福島の復興はまだまだこれからです。グリーンコープは福島県、宮城県、岩手県の被災地支援活動で出会った方たちへの支援活動を今後も継続していきます。

3.11から13年たった今も約3万人の方々が、自宅に帰還されずに避難生活を余儀なくされています。

避難者の推移

(2023年12月15日 復興庁データ)

	2011年12月		
	県内	県外	計
岩手県	43,953	1,536	45,489
宮城県	122,557	8,603	131,160
福島県	95,200	59,464	154,664
計	261,710	69,603	331,313

	2023年12月		
	県内	県外	計
岩手県	305	551	856
宮城県	703	951	1,654
福島県	6,046	20,558	26,604
計	7,054	22,060	29,114

東日本大震災復興支援募金にご協力をお願いします。

東日本大震災から間もなく13回目の311を迎えます

グリーンコープ生協ふくしま
専務理事 押山 靖子さん



12年の月日が流れ、少しずつ傷が癒えてきた事を感じ始めた矢先、2024.1.1の能登半島地震が起きました。どうしてもあの日と重なってしまいます。政府は、避難解除を進め、原発再稼働にシフトしようとしています。

そんな中、今でも避難生活を余儀なくされた方々が多くいます。福島第一原子力発電所では処理水の海洋放出がなされ、廃炉作業にはまだまだわからない事ばかりです。未だに不安を抱えながら福島で生活する事を選択した方々、避難生活を続ける事を選択した方々がいます。

グリーンコープは震災直後から被災地に入り、被災者により添いながら支援を続けています。その支援は今尚継続されています。私たちはグリーンコープと出会い、グリーンコープの理念に共感し、グリーンコープの取り組みを通して、安心・安全な生活を選択したく、グリーンコープふくしまを立ち上げ、少しずつ活動をしてきました。

グリーンコープの災害支援は、組合員のカンパ金で成り立っています。未だにたくさんの震災経験者が東日本大震災を過去の出来事に出来ずにいます。被災した方々が少しでも安心な日常を取り戻すために、これからも温かいご支援の程をよろしくお願い致します。

グリーンコープは今後も福島、宮城、岩手の被災地支援活動を継続していきます！

福島県復興公営住宅 二本松市 石倉団地

福島県二本松市にある石倉団地は、浪江町から避難してきた方を中心に、150世帯が暮らす復興公営住宅。2017年3月、町役場やJR常磐線浪江駅を含む一部地域で避難指示が解除されましたが、町面積の約8割は帰還困難区域となっており、震災前2万2千人いた町民の多くは戻っていません。今回、石倉団地の自治会会長 田村智則さんにお話を聞きました。



自治会会長
田村 智則さん
※前列写真中央が田村さん

福島県双葉郡浪江町出身。浪江町が「緊急時避難準備区域」に設定されたため、二本松市に避難し安達運動場応急仮設住宅に入居。その後、二本松市の復興公営住宅石倉団地に入居。2017年から石倉団地自治会会長を務めている。また、県北方部復興公営住宅親睦会副会長も兼任。

二本松市石倉団地で暮らす多くの方は浪江町出身

浪江町には多くの田畑、山林があり、米を作り蓄え、野菜を収穫し、山菜やきのこを採り、年金生活でも自然に恵まれ豊かに暮らしていました。しかし、あの原発事故で2万2千人いた住民は現在1千人に満たず、多くの方は浪江に帰還できずに避難生活を余儀なくされています。みんなも3・11前のような浪江町に帰りたいたいという願いを抱きながら暮らしています。

故郷の浪江町に帰還できない大きな理由

ひとつは放射能汚染の問題です。多くの面積を占める山林は除染ができていません。山林に降った雨は除染をした田畑や住宅地に流れます。山林を除染しなければ放射能汚染問題を改善することはできません。もうひとつは病院が不足していることです。帰還しても米や野菜を作ることもできないし、買い物に不便では高齢者が暮らしていくことはできません。

グリーンコープは、今後も田村さんが活動されている復興住宅での地域コミュニティーが活性化するように、今後も見守り続けて必要な支援をしていきます。

復興公営団地の自治会長としての活動

高齢者が多いので、先ず健康であること、そしてより多くの住民の笑顔が絶えないイベントやサロンを楽しんでいただくこと。餅つき交流会やクラフトハンド講習会、今後は浪江町にいたらやっていたであろう漬物作りや凍み餅(ごんぼつぱ)作り、野菜作りのイベントも計画しています。



田村さんは、自ら出演して愉快な体操のDVD動画を制作し、集会場に集まった住民と健康体操を定期的実践されています



餅つき大会の様子

震災孤児を支援する方々への支援を続けていきます。

NPO花見山を守る会

福島市内の「NPO花見山を守る会」高橋代表は震災孤児の子どもたちに学校を卒業するまで経済的支援(毎年1人に10万とクリスマスプレゼント)をされています。グリーンコープはこの活動を応援し、震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出することを継続していきます。



グリーンコープは2015年に桜の木を約200本植樹しました



NPO法人 昭和横丁

グリーンコープでは、NPO法人昭和横丁が運営する「横丁市場」の活動をサポートするために、キッチンカーの貸し出し、冷蔵庫設置やプレハブ店舗を支援するなど、川内村に帰還された高齢者の方々の地域コミュニティーが活性化するように今後も見守り続けていきます。

